

—愛する故郷・岡山をキーワードに、出会い、語り合しましょう—

私たちのまち・岡山を考える

市民のつどい 2013

みんなで作ろう。だれもが住みやすいまち岡山市を

前夜祭映画

大林宣彦監督作品

この空の花



大林宣彦監督
舞台あいさつ

日時

9月15日 日

会場

山陽新聞社 さん太ホール
岡山市北区柳町2-1-1

時間

① 13時00分～ ② 17時00分～

参加費

	前売	当日
おとな	800円	1,000円
しょうがい者	500円	600円
こども(小中高校生)	500円	600円

【両日通し参加の場合、二日間で1,300円】



記念講演

「原発・憲法 怒りの今を刻む」

講師：鎌田 慧 さん (ルポライター)



日時

9月16日 月祝

会場

岡山県総合福祉会館

日程

暮らしと地域、岡山を語り合う5つの分科会
10時00分～13時30分
全体会 14時00分～14時50分
記念講演 15時00分～16時30分

参加費

前売800円 当日1,000円
【両日通し参加の場合、二日間で1,300円】

連絡先：私たちのまち・岡山を考える 市民のつどい実行委員会 事務局 岡山市職員労働組合
〒700-8544 岡山市北区大供一丁目1番1号 岡山市役所本庁舎9F
Tel. (086)232-9714 Fax. (086)232-5317 E-mail: okayama.tsudoi@gmail.com



暮らしと地域、明日の岡山を語り合う5つの分科会

9月16日（月・祝）10:00～13:30 岡山県総合福祉会館

分科会の概要	共同討論者
<p>◇第1分科会 教育・子育てを考える</p> <p>～岡山市の子どもたちの貧困を支えるネットワークをつくろう（仮）～</p> <p>今、日本では「6人に1人の子どもは貧困状態」といわれ、子どもの相対的貧困率は先進国20カ国の中で上から4番目となっています（ユニセフ、2012年）。この岡山でも、子どもたちの育ちと「貧困」の問題は切り離せません。</p> <p>医療や地域、保育・学校現場から見える岡山の子どもたちの貧困の現状を出し合い、そして子どもに人生に影響を与える「貧困の連鎖」を克服するために、どんな支援ができるのか、考えていきます。また、子どもの側に立って解決するための具体的な支援のしくみである「スクールソーシャルワーカー」についても学びたいと思います。</p> <p>岡山で、すでに子どもたちのサポートに動き出している人たちがいます。子どもたちを支えるために何ができるのか情報交換しながら、一緒に考え、つながっていきませんか？</p>	<p>野尻 紀恵 <small>（茨木市スクールソーシャルワーカー 日本福祉大学准教授）</small></p>
<p>◇第2分科会 保健・福祉・医療を考える</p> <p>～誰でも安心して医療や介護を受けることができる仕組みづくりをめざして 新・市民病院の役割を考える～</p> <p>【岡山ER】と【保健・医療・福祉連携機能】を二つの柱として、2011年1月に発表された『（仮称）岡山総合医療センター構想』から2年半。市民病院は来年（2014年）4月の地方独立行政法人への移行を経て、2015年度の早い時期に北長瀬旧JR操車場跡地に新岡山市市民病院として生まれ変わる予定です。</p> <p>こうした中で、市民が安心して生き生きと暮らせるまちづくりのため、急性期医療と在宅医療の連携、また地域において予防・診療から介護まで切れ目のない支援を受けることができる仕組みづくりをシンポジウム形式で参加者みんなで考えます。</p>	<p>波川 京子 <small>（川崎医療福祉大学教授）</small></p>
<p>◇第3分科会 ESD・食・農を考える</p> <p>～持続可能な食と農のために、今何が必要かを考える～</p> <p>—岡山から新たな一歩を踏み出そう—</p> <p>食文化の継承が危ぶまれ、農業後継者・T P P問題で農業の将来へ不安要素がある下で、食と農を“持続不可能”とさせないために「岡山」から何ができるのか。次代へ豊かな「食」と「農」を引き継ぐために、何をすべきなのか。現状を知り、参加者で展望を探ります。</p>	<p>ファシリテーター 川島 憲志 <small>（フリーランス）</small></p> <p>パネリスト 江草 聡美 <small>（シニア野菜ソムリエ）</small> 近藤 明美 <small>（学校栄養士）</small></p>
<p>◇第4分科会 まちづくりを考える</p> <p>自分たちで考え、地域で決めて、 協働して解決する、新しい自治の仕組みを考えよう</p> <p>高齢化、子どものいじめや虐待、災害への対応など、地域の課題は多様化しています。行政の一層の努力が必要ですが、一方で行政に任せておくだけでは解決できない課題ばかりです。岡山市は地域の課題を住民自身で解決していく仕組みとして、地域のネットワーク組織＝「安全・安心ネットワーク」を提案し、現在すべての地域で組織がつけられ、それぞれの地域で活動の模索が続いています。</p> <p>この「安全・安心ネットワーク」を含め、住民自身が地域の課題を考え、地域で決めて、行政やNPOなどと協働しながら解決していく新しい自治の仕組みを、他の自治体の例にも学びながら考えたいと思います。</p>	<p>下野 克己 <small>（岡山大学名誉教授）</small> 磯部 作 <small>（日本福祉大学教授）</small> 小川 孝雄 <small>（コミュニティ コーディネーター）</small></p>
<p>◇第5分科会 平和を考える</p> <p>～平和憲法を地域から考える～</p> <p>戦争する国づくりに突き進む政府の動きの中で、これから主権者として岡山と日本、世界を担っていく子どもたち。平和を担う主権者を育てていくために、子どもたちに戦争の記憶を語り継ぎ、「平和都市宣言」の実現をめざす岡山市（行政）に何を求めていくのか。また、私たちに何ができるのかみなさんと考えていきます。</p>	<p>小畑 隆資 <small>（政治学者 ・岡山大学名誉教授）</small></p>

前夜祭映画

9月15日(日)

さん太ホール

①13時00分～16時20分終了予定 ②17時00分～20時10分終了予定

大林宣彦監督舞台あいさつ  第1回上映あと  第2回上映まえ

大林宣彦監督作品

この空の花

長岡
花火物語



—世界中の爆弾が花火に変わったら、きっとこの世から戦争はなくなる—

天草の地方紙記者・遠藤玲子(松雪泰子)が長岡を訪れたことには幾つかの理由があった。ひとつは中越地震の体験を経て、2011年3月11日起きた東日本大震災に於いていち早く被災者を受け入れた長岡市を新聞記者として見詰めること。そしてもうひとつは、何年も音信が途絶えていたかつての恋人・片山健一(高嶋政宏)からふいに届いた手紙に心惹かれたこと。山古志から届いた手紙には、自分が教師を勤める高校で女子学生・元木花が書いた『まだ戦争には間に合う』という舞台を上演するので玲子に観て欲しいと書いてあり、更にはなによりも「長岡の花火を観て欲しい、長岡の花火はお祭りじゃない、空襲や地震で亡くなった人たちへの追悼の花火、復興への祈りの花火なんだ」という結びの言葉が強く胸に染み、導かれるように訪れたのだ。

こうして2011年夏、長岡を旅する玲子は行く先々で出逢う人々と、数々の不思議な体験を重ねてゆく。そしてその不思議な体験のほとんどが、実際に起きた長岡の歴史と織り合わさっているのだと理解したとき、物語は、過去、現在、未来へと時をまたぎ、誰も体験したことのない世界へと紡がれてゆく!

かまたさとし
全体会・記念講演 鎌田慧さん

「原発・憲法 怒りの今を刻む」

9月16日(月・祝) 15:00～ 岡山県総合福祉会館

有権者の期待を裏切った旧政権に対する不信と不満から生みだされた新政権は、憲法改悪、国防軍の創設、集团的自衛権の行使などを標榜するばかりでなく、原発の再稼働にもこだわっています。わたしたちは、福島の大惨事の反省もないまま、ただやみくもに再稼働させる暴政を認めることはできません。活断層だらけの日本列島に、さらに原発を建設・稼働させようとする自殺行為は、さらに許すことはできません」

鎌田慧さん新刊著書「怒りのいまを刻む」(七つ森書館・2013年4月発刊)「はじめに」より



かまた さとし
鎌田 慧さん(ルポライター)プロフィール

1938年青森県生まれ。早稲田大学文学部卒。新聞、雑誌記者を経てフリー。ルポライター、ノンフィクション作家。被差別者・原発労働者など、弱者の立場に拠ったルポルタージュを多く執筆。「マスコミ九条の会」「さよなら原発1000万人アクション」呼びかけ人。「自動車絶望工場」「六カ所村の記録」等著書多数。

だれもが住んでいて良かった、住み続けたいと思うまち岡山に

～今年も「つどい」で市政と暮らし、そして地方自治を語り合いましょう～

今年で21回目を迎える「市民のつどい」は、市政全体について市民と市職員など様々な人が自由に語り、考える場として定着してきました。1年に1度の「つどい」ですが、1年間、各分野の運営委員会で学びながら準備をしています。そして、語り合ったことを市政に届ける取り組みも行なっています。

今、日本全体の貧困が深刻になっています。また、消費税やTPP、原発、改憲議論など、暮らしと平和の課題が大きな分岐点にあります。そして、10月には市長選挙も予定されている中で、今年の「市民のつどい」は開催されます。

「子どもの貧困、なんとかできないか」「新しい市民病院をどんな病院にしていくの?」「持続可能な食と農を築くために岡山から何ができるのか」「地域の課題解決の力をどう育てていくのか」「平和憲法を地域で生かしていくためには」など5つの分科会で市政の課題と暮らしを考えます。

地方自治の本旨は住民自治。だから、市政の課題を「私たちの課題」として考えていきましょう・市民と市職員が本当に協働して、私たちのまちを築いていくことができるよう、前夜祭・記念講演・分科会、二日間たっぷり楽しく語り合い、学びあいましょう。

会場案内

9月15日(日)

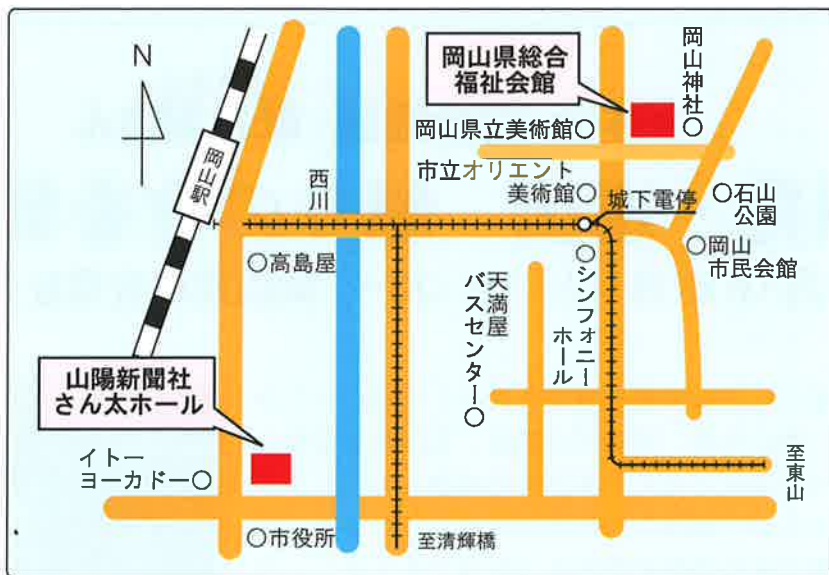
前夜祭：山陽新聞社 さん太ホール
(岡山市北区柳町2-1-1)
Tel(086)803-8222

9月16日(月・祝)

つどい：岡山県総合福祉会館
(岡山市北区石関町2-1)
Tel(086)226-3501

- JR岡山駅から徒歩15分(市役所筋を南へ下る)
路線バス5分(「山陽新聞社前」下車)

- 路面電車『東山行き』城下(しろした)下車
岡電バス『藤原団地行き』美術館前下車



※公共交通機関をご利用のうえ、ご参加ください。

ご参加にあたってのお願い

- ◆ 参加申込書を「つどい」事務局までお届けください(郵送、ファクシミリ、Eメール可)。お返しチケットと振込用紙をお送りします。
- ◆ 前売完売の場合、当日券販売がないことがありますのでご了承ください。
- ◆ 9月16日(月・祝)の昼食については、会場でお弁当を販売します。ご利用の方は申込書にご記入下さい。
- ◆ 9月16日(月・祝)は、保育室もご用意します。9月6日(金)までにお申し込みください。(保育料は子ども一人につき300円)



メールは
こちらから